

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿<6月15日（金）放送分>

テーマ「郷土の偉人」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は，毎月第3週に，奄美にゆかりのある作家や偉人を紹介するシリーズ「郷土の偉人」の第3回目です。

今回は，^{さんたろうとうげ}三太郎 峠 の名前の由来となった「^{はたなかさんたろう}畠 中三太郎」を紹介します。

畠中三太郎は，安政5年（1858年）川^{かわなべちようた べた}辺 町田部田の農家の次男として生まれました。少年の頃から家業である農業の手伝いをさせられ，農業に関する十分な知識と技術を備えていた三太郎は，30代の頃，農業技術指導員として奄美に赴任しました。

当初は，短期間の予定でしたが，茶畑づくり，シイタケ栽培，杉育^{いくびよう} 苗，木炭製造などの指導に優れ，その腕を買われて住戸^{こちょう} 長役場に雇^{やと}われることになったのです。

明治32年（1899年），農業の技術指導に精力的に活動していた三太郎は，サトウキビ作一色の農業の脱却を目的に，10年ほど前に住民の手によって作られた東仲間と西仲間を結ぶ峠周辺に農園をつくることを思いつきます。最初は，一人での開^{かいこん} 墾から始まりましたが，数年後には麓^{ふもと}の住民たちにも呼びかけて焼き畑を始め，大正初期には麓から峠までの道沿いに細長い畑の帯が完成しました。

峠の頂には，茶屋が建てられ，その周辺にはよく手入れされた茶畑が広がり，下の斜面にはいろいろな種類の柑^{かんきつるい} 橘 類が植えられていました。

明治の末期には，通学のために毎日この峠を超える少年たちのほか，旅人の利用も増え，一日平均4，50人は茶店に立ち寄るにぎわいをみせました。そして，名前のなかった峠を，親しみをこめて，三太郎峠と呼ぶようになりました。

しかし，大正6年（1917年）に新たな県道が完成し，しばらくして自動車を通るようになると，三太郎峠を歩いて超える人はめっきり少なくなりました。三太郎・シゲ夫妻は，麓の人達の協力を得ながら，その後も細々と茶店を続けていましたが，とうとう昭和7年（1932年）に相次いで亡くなりました。

大正10年（1921年）に奄美を訪れた民俗学者「柳田国男」は『海南小記』において三太郎坂のことを次のように紹介しています。

ひがしなかまむら たもと のぼ ひとすじみち これ
東 仲間 村の橋の袂 から、右へ上って行く一筋路は、是も明治になってから
しんみち とりつけ ごろくちょう
の新 路だ。取 付の五 六 町が急な坂であるばかりで、奥には一本も伐らぬかと思
しいのき かたまり な
う 椎 樹の山が深い緑の 塊 を為して並んでいる所を、谷川の向かいに眺めながら、
ゆるゆる ながね
緩 々と行く長根である。

いか
如何にもよく考えて付けた路線だ。三十年余り前に内地人の夫婦が、この峠に茶屋
を建てて付近の林を開 墾し始めた。肥後から薩摩に超える三太郎峠とは違って、是
そ しい
は其の爺の名に基づいて、三太郎坂と呼ぶように為ったのである。

それほど世に聞こえた三太郎ではあったが、彼にも相談せず世の中は変わった。
事業の方は気が長く、老いばかりは完成した。西仲間から昇る坂があまり真 直で左
まっすぐ
右に余地が無いために、もう第二の新道は此の峠を通らず、をめいても届かぬような
こ
遠方の山をうねっている。畠 を作る為ばかりなら、何も斯んな高い所へは登らな
はたけ ため
かったであろうに、三太郎は終に茶店を罷めてしまったそうである。

そ いか
夫れから今は如何しているだろうかと、峠に上って来て其の一つ家に立ち留まって
ふたほう
見ると、二 方から踏み込む店はすっかりしめ切り、出入りの戸を只一 尺ほど開
ただいっしゃく あ
けて、土間へ日が差している。

ばあ ふとん かぶ しらが
正月だというのに 婆さんは風でも引いたか、蒲団を被った白髪の手が見える。
いろり こちら ひじ
囲炉裏の此方には肱を枕にして、三太郎坂の三太郎はごろりと寝ている。

ものさび ひっち
物 寂しい三太郎峠の様子が、飾らない柳田国男独特の筆致で描かれています。

三太郎峠を超える道は、主人を失い、荒れ果て、茶屋の跡は草木に覆われているとのこ
とです。自然はある意味、残酷な面もあります。

しかし、三太郎の名前は、平成元年に完成したトンネルの名称としても生きつづけてい
ます。名前と一緒に、奄美の人々のことを思い、開墾に精を出した「畠中三太郎」の遺徳
も後世に受け継がれていくことでしょう。

今回紹介した、畠中三太郎については、前橋松造著『奄美の森に生きた人 柳田国男が
訪ねた峠の主人・畠中三太郎』に詳しく紹介してあります。名前だけは聞いたことがある
という方もぜひ一度お読みいただきたい本です。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。